

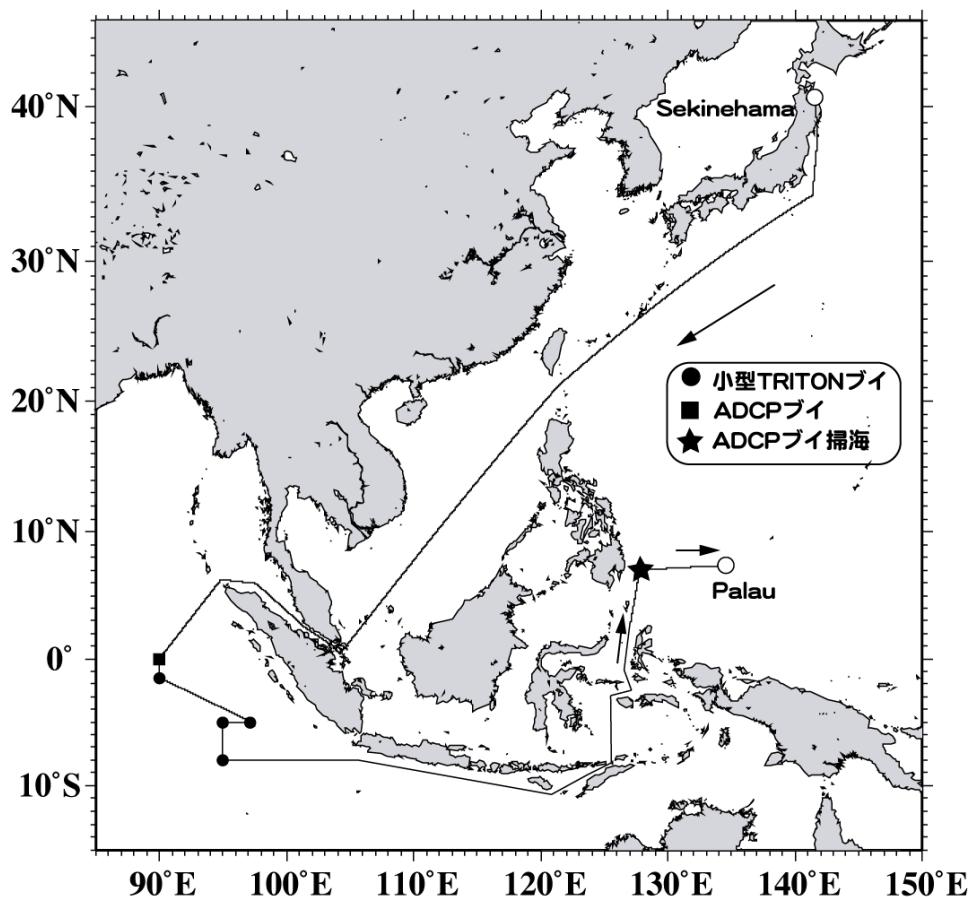
## クルーズサマリー

### 1. 航海情報

- 1) 航海番号 MR14-01
- 2) 船舶名 海洋地球研究船「みらい」
- 3) 航海名称 インド洋・太平洋熱帯域における海洋気候観測研究/トライトンブイの運用
- 4) 首席研究者 植木 巍（独立行政法人海洋研究開発機構 地球環境変動領域）
- 5) 課題代表研究者 安藤 健太郎（独立行政法人海洋研究開発機構 地球環境変動領域）  
石原 靖久（独立行政法人海洋研究開発機構 海洋工学センター）
- 6) 研究課題名  
相乗り課題（非乗船課題）  
(1) Argo フロートを用いた太平洋における海洋循環、熱・淡水輸送と  
それらの変動の研究および西部北太平洋における物理・化学・生物  
過程の実験的総合研究  
(PI : 須賀利雄, 独立行政法人海洋研究開発機構地球環境変動領域)  
(2) 2 波長偏光ライダーによる雲・エアロゾルの時空間分布観測  
(PI : 杉本 伸夫, 独立行政法人国立環境研究所)  
(3) 海洋性大気ガス・エアロゾルの広域観測による物質循環の解明  
(PI : 金谷 有剛, 独立行政法人海洋研究開発機構地球環境変動領域)  
(4) インド洋ダイポール現象による海洋炭素循環の変動  
(PI : 村田 昌彦, 独立行政法人海洋研究開発機構地球環境変動領域)  
(5) GOSAT データを用いた大気-海洋間の炭素収支推定のための船舶による  
インド洋・太平洋熱帯域 CO<sub>2</sub> 濃度観測  
(PI : 塩見 慶, 独立行政法人宇宙航空研究開発機構)  
(6) 船舶型スカイラジオメーター観測から得られる海洋大気エアロゾルの  
光学的特性  
(PI : 青木 一真, 富山大学大学院理工学研究部)  
(7) 海洋地球物理観測データの標準化及び海洋底ダイナミクスへの応用に  
関する研究  
(PI : 松本 剛, 琉球大学理学部)
- 7) 航海期間 平成 26 年 1 月 9 日 (木) から 2 月 13 日 (木)
- 8) 出港地～寄港地～帰港地  
関根浜～八戸～コロール（パラオ共和国）

9) 調査海域名 東インド洋赤道海域

10) 調査マップ



## 2. 実施内容

### 1) 調査概要

本航海はダイポールモード現象ならびにモンスーン変動において重要な役割を果たすと考えられている東部熱帯インド洋を対象海域とし、そこに存在する暖水の収束・散逸過程ならびにそこで生じている海洋・大気変動の諸過程を把握することを目的とする。本航海では小型トライトンブイの展開を主として行い、同時に共同利用型運用として採択された観測研究課題を実施した。観測航海時の熱帯インド洋と太平洋の大気と海洋の状態はほぼ平年通りの状況であり、ENSO や IOD の指標はいずれも通常年の値であった。また、フィリピン海に設置してあった ADCP ブイ ( $7^{\circ}\text{N}$   $127^{\circ}46'\text{ E}$ ) の掃海による緊急回収も行った。しかしながら、絡み素に張力が掛かったものの安全基準を超えた張力値に達したために回収を断念することとなった。

### 2) 観測項目

- |                |      |
|----------------|------|
| 小型トライトンブイの設置 : | 3 測点 |
| 小型トライトンブイの回収 : | 4 測点 |

ADCP ブイの設置 :	1 測点
ADCP ブイの回収 :	2 測点
CTD 及び採水 :	8 キャスト
UnderwayCTD :	18 キャスト
XCTD :	3 測点
海上気象観測 :	連続観測
船舶搭載型 ADCP :	連続観測
地球物理観測 :	連続観測
表層海水連続分析 :	連続観測
大気海洋 pCO <sub>2</sub> 連続観測 :	連続観測

\*\*\* 公募課題による他の観測も順調に行われた。